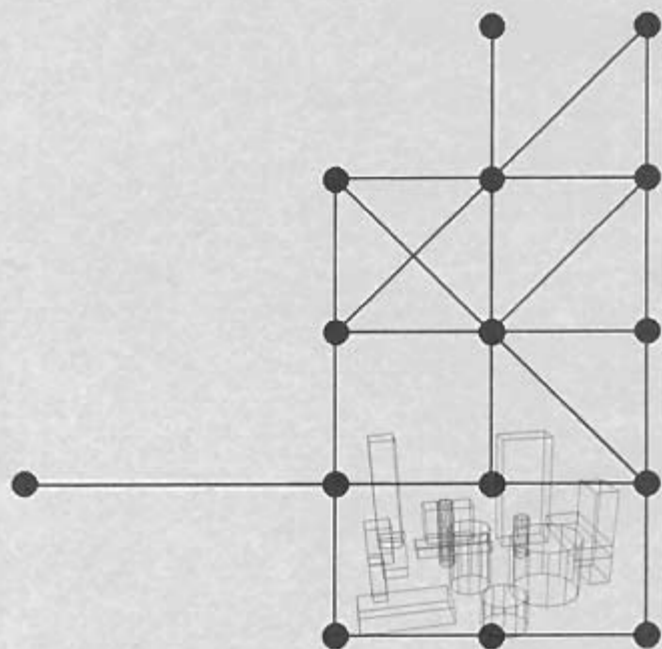


NO 16

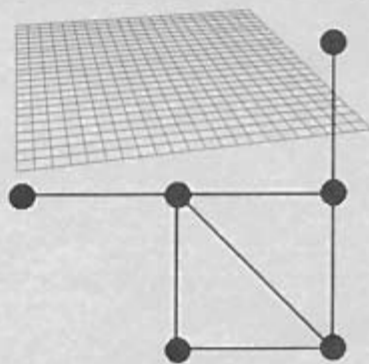


# ITSUMIKAI

五三会

広島工業大学建築学科同窓会

平成元年度版



## 目 次

ごあいさつ.....	2
OBだより.....	4
OBだより(近畿支部).....	7
在学生だより.....	11
第14回五三会コンペ入選発表.....	13
第16回総会のおしらせ.....	17
建築学科ゼミ紹介.....	18
昭和63年度卒業予定者就職内定一覧.....	20
広島工業大学建築学科教員及び非常勤講師名簿.....	22
母校キャンパス案内.....	23
五三会活動報告.....	24
五三会収支決算報告.....	25
広島工業大学建築学科同窓会「五三会」会則.....	26
五三会第16号(平成元年度版)スポンサー一覧.....	29
お知らせ・編集後記.....	30

# ごあいさつ

五三会顧問 中尾好昭

昨年の4月から佐藤重夫先生のあとをうけて五三会顧問の役をさせて頂いております。どうかよろしくお願ひ申し上げます。

さて、五三会の皆さんのその後の御活躍、耳にするたびに大変喜んでおります。こうした皆さんの社会における御活躍のお蔭と思いますが、最近広島工業大学の社会での評判がどんどん高くなっているようです。関西の或る(当学と同種ですが歴史はずっと古い)大学の学長さんから、「最近広島工大はよくやっていると評判ですよ」と言われました。また一般の人からはよく「広島工大は仲々入れないそうですね」という言葉を聞きます。

しかしこのような世間の御好意は、朝夕では仲々得られないものである反面、油断をするとすぐに瓦解し、信用を取り返すには又大変な努力が必要となります。我々はこれまでに得られたこのような世間の信頼を維持し、さらに向上させてゆく努力を続けることが大切だと思います。

今建築学科で我々教職員の抱いている夢があります。建築学科の製図室に遅くまで煌煌と灯りがつき、建築が好きで好きでたまらない学生さんを数多く育て、世に送り出したいというものです。残念乍ら今の製図室の設備では、担当の先生により精一杯の努力はされていますが、上の理想に近づけるのが難しい状況です。しかしこれについては学長(総長)先生もよく理解しておられ、今後教室として御指導を頂くことになっております。経済的な問題も絡んで来ますので、直ちに解消という訳にはゆかないと思いますが、どんなに時間をかけても達成したい目標と考えています。

つぎに、広島工大では今大学院の設置に向けて頑張っています。建築の場合は、色々理由があって、土木より3年程遅れそうですが、文部省の認可を得るためには教授陣の努力も必要となります。研究論文の数なども今まで以上に大切になってきます。各先生共国立大学などと違い教育で多忙など種々の制約の中で、何とかしようと頑張っておられます。

今さらいうまでもありませんが、国際社会での我国の立場の向上と共に、創造的仕事の

比重が従来以上に大きくなり、専門教育を受けた大学院修了者のニーズが増えています。企業によっては、就職担当の方が「お宅の大学での大学院進学率はどうですか？」と聞かれることも時々あります。又社会全般での評価として、大学院のあるのが当たり前という空気になるにつつあるのは否めません。一方建築の学生さんの中にも、大学院進学に意欲を燃やす人が増えて来ました。

これは、大学だけで駄目だというわけではありませんが、新しい時代に向って、従来あまり考えなくてもよかった創造的役割を果し世界のお手本になれるような働きを目指して、従来よりもう一段高い立場に挑戦しようとする意欲的な学生さんが増えているということで、これは我国の社会にとっても非常に望ましいことと思います。現在は実績として広東、東工大、京都大、宇都宮大などなどで、建築全体で毎年3～5名程度ですが、将来は全学生の1割(20人)程度以上が進学するようになって当然と思っています。無論数年後には広島工大自体の大学院からも、すばらしい人材を世に送り出したいと考えています。

最後に、以上諸先輩、現学生の皆さんの努力にまつ所大であります。私の考えでは、まず我々教育現場にある者の自らの学問・技術を高める努力が根底になければならないのではないかと思います。大変難しいことではありますが、何でもよいから「この方面では世界の誰にも負けない」というものを持つことを目標に掲げて頑張りたいと思っています。

元号も変わり、今後我国全体が誰もが経験したことのない道を歩いて行くことになると思いますが、我々もその中であって、自分たちのことだけでなく、世界の人々のためにもなることを心掛けて、新しい歴史を築いて行く大事業にかかわっている実感を持って進んで行けるようでありたいと思います。

時の流れは早いもので一期生（私自身もその一人です）が社会へと巣立って、はや20年の年月が経ち、各自がそれぞれの分野でリーダーシップを発揮していることでしょう。

時の蓄積はとて一口で表現出来るものではない。時間を静止すれば平面時象であれ、立体時象であれ分析し、把握することは可能ですが、その所為は無限量の彼方に向かって必要であり、時間軸をコマ送りから連続へと移行していくと、それは映像として展開されていくようになり、もはや分析ではなく、肌で感じる段階であり、個人の感性の世界へと入ってゆきセンスの有る無しが問われてきます。

五三會も20才、成人式を迎え、独り立ちする時に来ています。皆様の支えでここまで歩いて来ました。又、有志の方達が時間をさいて、皆様に情報を送り続けてくれましたし、今も続けているのです。地味な忍耐を必要とすることです。

24年前、広島県佐伯郡五日市町三宅に在った母校も現在では広島市に合併され佐伯区となっています。5年後には沼田地区でアジア競技大会が開催されるのを起爆剤として、広島新交通システムが導入され、(宇品-紙屋町-牛田-紙園-安古市-沼田ルート、この後は佐伯地区…廿日市…宮島又は西広島(己斐)方面から宇品へと環状線に移行←個人的観測)沼田佐伯地区にかけて西部丘陵都市(ニュータウン)が出現し、広島大学は東広島市(西条町)へと移転、すでに工学部跡地は情報施

設が出来(既設)、平和公園ゾーンでは、原爆資料館東隣りにあった公会堂は国際会議場(7月1日開館)、中央卸市場跡地(西部卸団地に移転済)には厚生年金会館(既設)、創造プラザ(建築中)が誕生。広島空港は、本郷町(賀茂郡)用倉へ移転(アジア競技大会開催に間に合うよう計画)、これと並行して交通網も、山陽自動車道(大野町-廿日市-五日市-広島-志和-西条開通)、紙園新道(既設)、広島南岸道路、山陽・山陰横断道路と幹線交通網が整備されます。その傍わらでは、築城400年と銘打って広島城築城記念事業が進行中(今年実施)であり、今夏開催の海洋博も準備に熱気を帯び、広島は何処(いずこ)に向かってか目的の定まらぬままに変貌しつつあるのです。(まとまりのない列挙で申し訳ありません。)このような状況の中、地域との結びつきを命題に行事の一つである、五三會主催の設計競技(コンペティション)も回を重ねて15回になります。単に母校のみを意識するのではなく、広く交流の場を求め今では福山大学、広島大学と参加校も増え、課題も地域に関わりのある中から選び、コンペ内容がそっくり地域に提言出来るよう考えております。まだまだ力強い歩みとは言えませんし、皆様の評価を受ける位置付けも出来ていない状態ですが、歩き続けることはしたいものです。5月には五三會の集い(別紙案内)も企画しておりますので、皆様の参加を心からお待ちしております。

# OBだより

## 15年目の雑感

松尾建設福岡支店 三好 覚 (四回卒)

工大を卒業して、15年目、初めて投稿させてもらいます。卒業生の皆様、色々な建築関連分野で、御活躍の事と思います。

私は、卒業と同時に出身地九州へ戻り、以来現場勤務を続けております。時の流れと共に工事内容が変化し、経済状態が変化していく中で、最近特に感じる事があります。それは産業別人口のアンバランス、又、産業別賃金のアンバランスです。今、結果として、建設技術労働者の絶対数の不足、高齢化、未熟労働者による、危険性の増大となっており、ますます、建設をとりまく環境が悪化している様に思います。現在、日本経済は円高景気と言われていますが、それは円高差益によるもので極少数の産業しか当てはまらないと思います。一次、二次産業は、あくまでも厳しい状況の中に立たされているのが現状です。国の基盤をなす農業にしろ、建設業にしろ、機械化・合理化と言っても、簡単にやれるものではありません。そして、それに従事する労働者が、あまりにも報われないのが現実ではないでしょうか。今の若者は、楽な仕事、格好の良い仕事、横文字の職業に集まると言われています。建設に従事する「いわゆる技能労働者の後継者が、極端に減少していく傾向を喰い止めるには、建設業の労働条件の改善と賃金の保障にあると思います。

これを実現するには、あまりにも問題が山

積していますが、営業段階での常識ある受注と世論の理解なしでは実現出来ません。建設業は受注生産であり、施主の理解がないかぎり、業者間の過当競争によるコスト割れ、短工期を強いられるのが、常のように思えます。この中で技術者としての自分と、企業人としての自分の立場が相反して葛藤しているのが現実です。

中小のゼネコンサイドでは、今、いつまで続くとも分らないこの事態にいかに対処していくかが問題になっていると思います。

各社、それぞれ工法改善や、合理化が行われていると思いますが、根本的に日本の産業の中で、建設業の確立をせねば……と言う様な大きな問題ではないでしょうか。

「昔、建設業は、いかなる不況時においても、松の緑のごとく輝いていた」と言う事を聞いた事が有りますが、これから先の建設業、どの様になる事か？誰にも言えない、こう言う不安を抱いているのは私だけでしょうか。

話は変わりますが、今、福岡にて勤務しております。この地には広島工大の同窓生はいないと思っておりましたが、少数ではありますが先輩、後輩がおられる事を知って嬉しく思います。まだ数人しか知りませんが、支部結成の動きが有る様に聞いています。やはり社会の中で同窓会と言う、何かしら気の許せる独得の組織は欲しいものです。

## ある建築の風景

松原秀範建築研究所 松原秀範（年々）

1988年6月初旬、空から俯瞰するニューヨークマンハッタン島は思いのほか静寂な様相を見せていた。重い雲のあいだから、初夏の鋭い陽光が、切り立つ摩天楼を射ていた。ニューヨーク在住の友人から日ごろ聞いていた巨大な蜃気楼が現実となって、眼下に在った。私を乗せたクライアントの車がイーストリバーを渡ろうとした時、水晶が林立した様なスカイスクレーパーの中に、ひときわ存在力のあるアールデコの観塔が鈍い光を放つを見た。クライスラービルである。その鈍い光はまさに近代の光を象徴するかのような精神力を持っていた。ニューヨークを満喫する余裕もなく、翌日から44ストリートのインテリアの設計に、一ヶ月滞在することになる。それでも週末には、友人達ともっばら芸術、建築の話しや、カーネギーホールのクラシックコンサートで、シベリウスの大地の魂に心を浸した。ウォール街のイサムノグチ氏の彫刻は、私に日本四国の地を思い出させた。……ここニューヨークは、世界の人種のるつぼである。

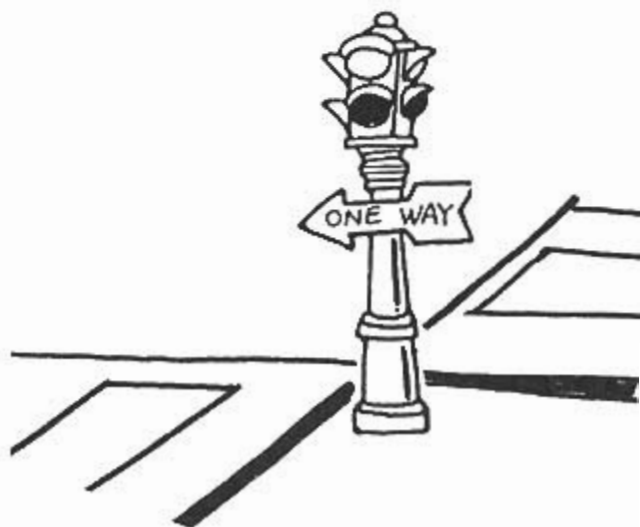
時として、神聖なまでの精神が、巨大な蜃気楼にスパークする。かつて彷徨したヨーロッパ大陸やスカンジナビア大陸、韓国の風景が私を建築へ向けて誘った。そこにはいつも満天の星群が降り、民衆の賑やかな生活、時間を越えた地球の営みを感じた。我々はいったいどこに向かってどこに帰ろうとしているのだろうか。

時は前後して、1987年10月、私にとって近くして遠い国、韓国の地に建築家、伊丹潤氏と共に降り立った。厳冬の風がソウルの町を凍てつかしているにも拘わらず、オリンピックに向けて、ほとぼしほどの活気に圧倒された。ようやく国際舞台に躍り出ようとしている予感を強く感じる。この時以来、私と韓国の関係はこれからも続く事になるのだ。設計のあい間を見て慶州や安東の悠然たる山河や集落に身を置き、石を愛した。友人達と新鮮な食事を酒のさかんに、芸術、文化の話しに花を咲かせた。遠くシルクロードを経て、東ヨーロッパの文明と交わった時間の厚みが絶え間ない思潮をダイナミックにした。それ

が自然の理の上に立脚した民衆の思想儒教を育んだ。奈良(NARA)は韓国語で「町」の意味だと聞く。仏教と共に様々の伝来があった歴史がリアリティーをもって想像力をかきたてた。また韓国語で「温暖」とは、太陽の光に満ち溢れ、豊穡な地勢に恵まれ、清い水に満たされた場所を謂う。集落は明確なゲシュタルトを持ってそこに在っていた。民衆の生活が自然の理に立し、智を得、独自の世界を築いたのだろうか。

建築について旅することは、文化の源泉を想像力によって探り、その場所に精神が彷徨することだ。建築は「行」であり、自由な精神の解放によって促される想像力の具現化であるとするならば、開かれた個の存在理由を止揚することが、建築的行為であろう。

1989年1月 東京にて



## 卒業生の皆さん、お元気ですか。

㈱LAT環境設計事務所 中島伸夫 (49年卒)

卒業生の皆さん、お元気でしょうか。私は、今年度の五三会の役員をさせて頂いている中島と申します。皆様方には平素より、五三会の発展の為、いろいろと御尽力頂きまして誠に有難うございます。さて、今回の寄稿は、あくまで一卒業生の立場として、私が昨今感じていることを述べさせて頂きたいと思えます。

早いもので、私が社会人となって15年が過ぎようとしています。年齢も当然のことながら40才を間近に迎えることとなりますが、この年代になりますと、自分がすでに経験してきた若い世代の気持ちや、年配の方々の気持ちも、同時に分かり始めるようです。まさに心身共に、人生のまん中に位置しているのかも知れません。

私は現在、広島市に本社を置く㈱LAT環境設計事務所と言う建設コンサルタントで、環境デザインの仕事をしています。事務所には広島工大を卒業した仲間も4人程おりますが、建築出身の者だけでなく多彩な技術者が集まり、公共事業を中心とした建築、造園、土木、都市計画、そして各種レクリエーション施設の計画を行っています。端的に言えば、1994年に行われるアジア大会のメイン会場の計画等を行っている、と言った方が分かりやすいかも知れません。私どもは、創立16年のまだ若い事務所ですが、昨年には小社で設計を担当した呉市の都市街路の環境整備に対して造園学会賞を頂くなど、やっと社会的に貢献できる事務所となり始めたことを、皆で喜んでいるところです。

私どものように、比較的曖昧模糊とした戦域に身を置いていますと、建築業界や土木業界、造園業界といった、建設の分野を構成する色々な世界をかいまみることが多く、また同時に、世の中の動きに敏感な対応を求められることも多いようです。昨今は、リゾート開発ブームで、私どもも公共団体や民間のリゾート計画に幾つか参画していますが、これとて現在の社会経済に直結するものであり、単に専門技術だけでなく、広範な知識が求められるなど、末だ雑学の幅を広げざるを得ない

状況が続いています。

こうしたなかで私が感じるのは、我々の年代はまさに社会を動かす中心的な立場となっておりますが、我々が自分達の夢を実現しようとするためには、単に一分野の人間だけでは何もなし得ないと言うことです。つまり、我々がよりよい社会を創るためには、同業はもとより、異業種の人たちと互いに協調しあう必要があるということです。そしてそのためには、人と人がより多く知合い、語り合うことが大前提で、これからの世の中はKNOW-WHO、つまりより多くの人間関係をいかに多く持つかが重要で、これがなければ人間がつくる社会は、なかなか動いてくれないということです。

当り前の話をしているのかもしれませんが。しかし、この当り前のことを、意外なことに技術の世界に没頭している我々は見失いがちなことが多く、我々はこの反省に立って、これからより活動的に生きてゆく必要があるのではないのでしょうか。

余談ながら(今年度の役員としては)、だからこそ五三会の総会・懇親会には、ぜひ多くの方に参加して頂きたいのです。

卒業生の皆さん、頑張りましょう!!



## 「天国に一番近い町」チベットでのこと

川崎清十郎(環境・建築研究所) 大森正夫 (56年卒)

修景には保存をと、再生という開発の前で  
 囁かれる現在の都市で、過去を置き物に周景  
 を消しながら向かうのは何処なのか。本来性  
 を失い、華やかな悲哀に暮れなずみ始める京  
 都を憂う訳ではないが、訪れてみた。

右回りの人の中から、「喧嘩」と云う言葉が  
 余りにも精神性を欠く都市からの生成である  
 と感じながら、他にこれと云った言葉も見当  
 らなく、僕は右回りに立ち上がる砂と体臭が  
 超越的にコンフューズされた歩みの群流から  
 ひとまず離れ、眼前の事実とは信じられない  
 横顔を見詰めたが、少しずつ正面広場へと  
 向かい始めたのであった。

右へ右へと限りなく歩み回るその内にある  
 もの、彼等にとっての遥かなる道の終着目  
 的地、ラマ教の総本山・大昭寺。ここは、遊  
 牧民である信者にとっての絶対的聖地・チベ  
 ットのラサである。

神Lhaの土地Sa・ラサには、信じがたく映  
 る風景がある。マニ車を回し、念仏を唱え右  
 回りに歩く人、そしてタオル越しにも息苦し  
 い粉塵の足元で、更なる五体投地を繰り返す  
 巡礼の群列。標高3650m、一点の雲もない青  
 紺の空に石白の壁、射て差す光をも包むバル  
 コルで焚かれた香の煙。部屋中にまとわり付  
 き、身体にまで充満する大昭寺の燃えるヤク



①



②





③



①

バター群と闇のダライ・ラマ。

大地が見てみたい、と云う信じがたい思いに駆られて、ひたすらここまで向かって来たものの、何を覚えたかったのか未だ分からず、ただ無事信じがたく来たことを、回りの信者とは全く違う次元ながら、思っていた。

広場に待つベキンシーブ（中米合作の4WD）に乗り移り、腸も飛び跳ねる程の瓦礫の上から薄く広く果てしなくうねる川を横目に、僕は漠然と振り返っていた。

ビザもなく仕方なく香港から入国し、広州への途上で旅券取得手続きを始めたとき全ての時間が広く伸び始めていたこと。信じがたい問題が幾つかあったものの、予約もできないこの国で航空機を比較的短期に乗り継げた

こと。そして、チベットへの中継点・成都（Chengdu）に着いて初めてフリーでは自治区に入れないことを知らされながら、二人のツアーの段取りをしてくれたことを、何より信じがたく高額であったことと共に、ほんやりとした頭で想っていた。

CHENGDUとは、その空港から市街地へと向かうひたすら真っ直ぐ一本の並木道が、霧に消えるまで果てなく水平に伸びる緑の畑に覆われていたことに、自然の濃淡とは距離を想起させ、耕される緑とは水と大地を含みつつ、未だ見ぬ過去を自然に夢ささせることを理屈抜きに植え付ける、町でもあった。

これを見ればそれで良かったのだと、十分過ぎる程認知出来る風景が予想外に待ち受

けていたのである。ホテルの窓越に広がる霧に煙る都・成都。中国の京都というガイドブックの言葉に嘆きながら、やはりパリともロンドンとも違うその街灯の暗さが、独特の広がりの中から沁み出る潜在性であると、比較で記憶させる自分に扉を開き、夜明け前の深緑から離陸し、土地の高地に降り立ったことを、振り返っていた。

川沿いの道から外れ、小さな集落の脇を通り抜け、後ろに聳る岩山へ向けての垂直蛇行

が繰り返され、眼下の集落が航空写真状に見え隠れし始めた頃(写真1)、やっと砂を分けるワイパーの軌跡越しに見えた、この寺がガンデン寺(写真2)である。この勇姿に襟巻とし吐き気をもよおす体調とは裏腹に、やはり思った通りの込み上げる安らぎを覚え、僕は車を降りた。

ガンデン寺とは、ラサの町から60km南東、キチュ河南岸の山の頂上近くに扇形に広がる寺である。文化大革命以来ひどい破壊を受け、



⑤



⑥

## OBだより

これまで廃墟となっていたところに近年修復建造が始まったところである。建立された時点の座主・ツォンカバはゲルク派の中でもダライ・ラマ、パンチェン・ラマに次ぐ地位であり、3300人もの僧侶がいたと言われる大本山である。

破壊され、天へ向かう石積みの塔、壁、基壇。生色を消され大地へ眠る廃墟(写真3)を同化すべく築造される紅朱の本堂、純白の仏塔(写真4)。ポクラ宮(写真5)を始めとするチベットにおける寺(写真6)の、「白」は石積みを粘土で固めた漆喰であり、「赤」は山に点在する灌木の積み重ねて出来る自然色である。集落も燃料であるヤク糞を貼り重ねた漆喰塗りや石積みの壁と強烈な陰影(写真7)がコントラストを付ける中で、青、赤、黄の色鮮やかな装飾の窓枠と天に向かう幸福と繁栄の祈りの旗・タルチョの枝が自然と時を包み込み、営みの重さを語っているのである(写真8)。

この広大な天空の中で、岩山を岩山のままに建ち続け、破壊を破壊のままに建ち続けるその深くも静かな生命感に、全てのベースは過去もロケーションも背景と云う名の基に大地というところに集約されることを、存在の根とは大地性に他ならないということを、教徒のこの穏やかで信じがたい祈りの歩みの中に覚えずにはいられなかったのである。しかしながら、それでもやはりベキンジブは、五体投地の子供や老婆達の横を擦り抜け、祈りの旗をも砂煙に巻き消しながら、空港へと走り抜けさせられる風景を演じて行くのである。



⑦



⑧



## 学生の意識

4年 児玉 浩平

4年 竹本 孝

現在僕たち4年生は卒業設計、卒業論文に追われる毎日、師走の忙しさも加わり、始めの3年ちょっと楽しめてきた？分今の生活は体をこわす寸前の忙しさに当惑しつつもこれをやらなければ卒業できないという使命感にも似たものにかりたれ、誰もが必至になって課題に取り組んでいる今日です。僕は今、設計の方に取り組んでいます。ケント紙10枚を鉛筆仕上げで12月20日に提出しなければならず、この学生便りのメ切りと重なってしまい、とりあえず製図を仕上げたこのレポートを書いているのですが本当に大変な日々を送っています。

さて先日の五三会の集会で話し合ったように現在、建築学科の学生の設計コンペに対する意識レベルの低下について話し合われましたが確かにそれは現実のことと思います。それは建築全体に対しての意識レベルが低下していることも関係しているように思うのです。大学に入学する際にしても何10%の学生は別に建築をめざして入学しているわけでもなく、また卒業しても建築関係以外の企業に就職する人も年々増えているようです。この傾向は良く言えば視野の広い学生が増えたと言えるし、悪く言えば一つのものに熱心になれないということも言えるのです。これから先はもっとこの傾向が強くなり、本当に建築を目ざす人は大学よりも専門学校に入るようになるのではないのでしょうか。そういったことが進展しないように五三会と学生との連けいをもっと強くし、OBの方々はもっと現在の学生の意識をはあくし、学生は建築にたずさわるOBの方々の仕事はどういうものであるか、お互いに接し合って理解しなければならぬでしょう。

昨年、五三会の幹部になり初めて五三会というものを知ったような気がする。それは、五三会の存在というものを知ったのではなく五三会の素晴らしさを知ったということである。五三会の幹部になるまでは、同窓会という堅苦しいイメージが非常に強かったが、実際は大学生活の中の貴重な思い出になると思う。例えば、今まで全く口もきかなかった人と友人になれたということである。それも、一生の友人になれるといっても過言ではない程である。特に大学祭の卒研展示、バザーなどの作業をみんなが1つになってやった時、今までにない程の感動を覚えました。みんなで酒を飲み、バカをやり、そして時には真剣すぎる程、真剣な話に花がさいたりした。これは今しかできないし、今だからこそできるのだと思った。

今、述べたことは、4年の五三会の幹部の中だけの話であり、建築学科全体がそうなったわけではない。今私が思うのは、これからは、五三会の幹部だけではなく建築学科全体に今までに述べた気持ちをもってもらうことではないかと思う。そうならば広島工業大学建築学科を卒業したのちも、五三会というものの重要さがわかり建築学科に入ってよかったという気持ちになると思う。これは、大変に難しいことではあるが、このことを我々の後をひきつぐ五三会幹部に何とかやってもらいたいと思う。そして、これからも広島工業大学の五三会の発展を祈って卒業したいと思う。

### 五三会学生部会新役員紹介

会 長	広 田 裕 二	書 記	佐々木 良 太
副 会 長	中 川 敬 太	"	細 木 浩
"	橋 本 直 昌	会 計	児 玉 光 司

企画幹事	二 井 浩 樹
"	和 田 守 史
広 報	米 谷 光 史
"	福 丸 隆 雄

# 14th ITSUMIKAI COMPETITION

## 第14回五三会コンペ入選発表

### コンペ報告

久保 恭一

昭和63年7月31日、第14回五三会コンペは  
締切の日を迎えました。

応募する側にとっても、受入れる側にとっ  
ても、今迄の苦勞が喜びに変わるはずだったの  
ですが、蓋を開けて見ると、学内より2点、  
学外より1点、計3点の応募作品しかなく、  
受入れる側としては少々寂しい結果となりま  
した。しかしながら応募作品は3点とも力作  
であったことが、我々にとっての救いとなり  
ました。応募して下さいました皆様に厚く御礼申  
上げます。

審査は9月18日に行なわれ、佐藤 洋先生  
の厳正なる審査により、右記の結果となりま  
した事を報告致します。

今回は課題規模が大き過ぎたのか、応募点  
数が3点と競争率に欠けてしまいましたが、  
次回は15回記念コンペとして、より魅力ある  
企画を予定しております。多数の応募を御願  
い致します。

又、末尾となりましたが、御多忙にもかかわらず  
審査を引受けて下さいました佐藤先生  
に、そして御協力下さいました皆様方に厚く  
御礼申し上げます。

#### 2等賞

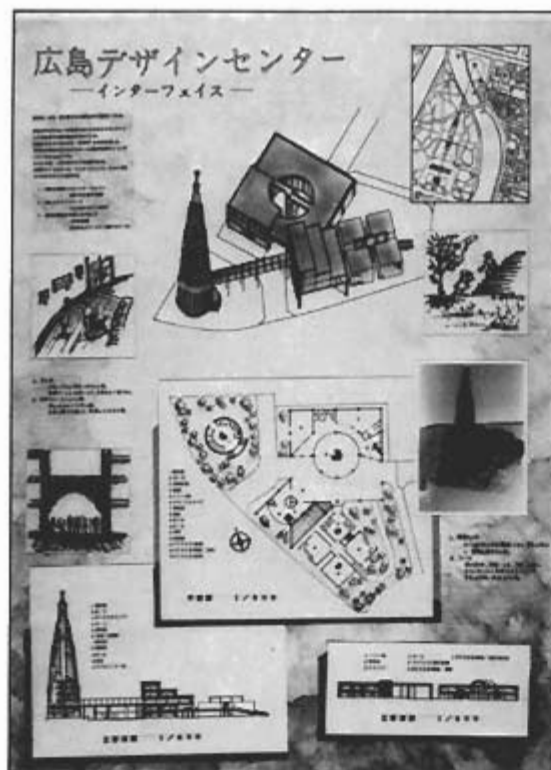
先永 早百合  
喜多島 文恵 (広島工業大学)

#### 3等賞

藤本 誠二  
藤井 勉  
上原 学  
中川 美恵子 (福山大学)

#### 佳作

笠井 壮一 (広島工業大学)



## 2 等 賞

先永早百合・喜多島文恵(広島工業大学)



## 3 等 賞

藤本誠二・藤井 勉・上原 学・中川美恵子(福山大学)

佳 作 筑 井 北 一 (広島工業大学)



## 第15回 五三会コンペに

## 何かが起る!!

### ● 応募要綱もうじき発表 ●

五三会コンペも今回で第15回目を迎えることができました。これもひとえに皆様方の御支援の賜物と思っております。

今回は15回記念コンペとして賞金総額を20万円に引上げ、広島在住の建築家に審査を依頼する予定であります。

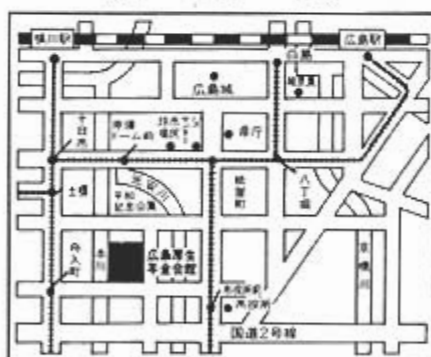
詳しくは近日ポスターにて発表致しますので皆様ふるって御応募下さいますよう御願ひ致します。



# 第16回総会のお知らせ

- 日 時** 平成元年 5月13日 (土曜日)
1. 五三会総会……………午後 5時30分
  2. 五三会懇親会……………午後 6時
- 場 所** 広島市中区加古町 3-3 (平和公園南側)  
広島厚生年金会館 TEL (082)243-8881
- 内 容** 建築学科同窓生五三会員の多数が参加し、建築学科各教職員の参加を求め、活動報告や会計報告を行ってのち、酒と豪華な料理で会員相互の親睦をはかる。
- 参 加** 参加者は、下記事務室に電話連絡か、又は官製葉書に“出席”と書いて5月6日必着をもって申し込み下さい。
- 【あて先】**  
広島市佐伯区五日市町三宅 広島工業大学建築学科菅原研究室 〒738  
TEL (0829) 21-3121 内465
- 会 費** 5,000円

〔案 内 図〕



# 建築学科ゼミ紹介

(ゼミ毎の卒研テーマ)

## (中尾好昭先生指導)

- 光安 昭典 鉄骨造建物の地震耐力に関する研究  
(その1)実験装置の計画・設計・製作  
永井 寛士 (その2)実験装置の強度解析  
筒井 充晶 (その3)実大P.C壁版模型の設計・製作  
西村 和信 (その4)P.C壁版の復元力特性実験  
西本 直樹 (その5)P.C壁版のばね特性計算  
大谷 智俊 (その6)立体骨組構造固有振動解析プログラムの開発  
原田 直之 (その7)15階建鉄骨造ビルの立体振動解析  
海野 裕之 (その8)P.C壁版の軽量化に関する検討  
船本 晶生 板状構造物の耐震補強に関する検討  
船先 康彦 機械基礎の衝撃振動伝播低減に関する研究  
クレーン構造体振動応答のシミュレーション

- 栄谷 勝美 (その1)電気-構造系の連成振動解析  
岡田 卓也 (その2)構造体の振動応答解析・実験  
松浦 影 (その3)吊荷の揺れ応答解析・実験  
高強度コンクリート造建物の設計に関する研究  
米山 浩之 (その1)2階建普通コンクリート造建物の試設計  
斎藤 武司 (その2)2階建高強度コンクリート造建物の試設計および普通コンクリート造との比較・検討  
田中 眞一 鉄筋コンクリート造建物の床振動に関する研究

## (船越 穂先生指導)

- 井上真司・梅木修治・岡田貴治・岡本季基  
「高強度コンクリートを用いたプレストレストコンクリート梁の曲げ挙動」  
清平剛・戸田一誠・森川誠・山下季雄  
「曲げを受けるプレストレストコンクリート梁の力学的性状」

## (佐藤立美先生指導)

- 長岡伸一郎・水野和彦  
既存鉄筋コンクリート建築物の耐震性能に関する研究  
西本忠説・江藤啓二・森田浩文  
鉄筋コンクリート有開口壁の隅角部ひびわれ防止に関する基礎的研究  
戸倉雅幸・石畑清隆  
鉄筋コンクリート造有孔梁の開口補強に関する実験的研究  
野見山和彦・村上和隆・吉谷勝美  
鉄筋コンクリート柱の靱性向上に関する実験的研究

## (丹羽博亨先生指導)

- 秋山 卓也 PLAYING MUSSUM  
江種真千子 COMMUNITY CIRCLE  
迫田 真治 廿日市少年自然の家  
高迫 修士 MIYAJIMA YOUTH HOSTEL  
広安 一朗 A CONCENTRATION SPOT  
森本 久 CHURCH WITH URBAN FIELD  
若佐 晋 R.C FOR THE AGED  
上野 誠 RUN FOR YOUR RESORT

- 上田 英之 21 COMMUNITY SPORTS CENTER  
近藤 友晴 GYMNASIUM  
迫田 守 A計画-AQUATICS STREET-  
佐藤 正尚 TABIE-IAND CLUB-  
高田 秀樹 FOR A SINGLE LIFE  
藤永 泰士 COMMUNITY IN HATSUKAICHI

## (牛島賢象先生指導)

- 池本 清・木村幸弘・柳楽 晃  
団地内における住宅の構造と生産プロセスについて(五月が丘1丁目の場合)  
大竹真二・森記一  
団地内における住宅の構造と生産プロセスについて(五月が丘2丁目の場合)  
石田昌之・瀬尾義彦・井上 隼  
団地内における住宅の構造と生産プロセスについて(五月が丘3丁目の場合)

## (天満祥弥先生指導)

- 河野 洋介 本造住宅におけるシロアリ被害の研究-中国地方におけるアンケート実態調査-  
福田 剛三 古建築の熱環境に関する研究-冬期実測における放射冷却の影響と補正について-  
渡辺 英幸 体育館の設備計画-スポーツ照明を考慮した設備設計-  
荒谷 秀史 中国地方の本造住宅におけるシロアリ被害に関する調査-研究-アンケートによる被害率分布状況-  
楠 雅裕 医院における設備計画-衛生面を重視した設備設計-  
森本 秀樹 海砂の研究-岩質・粒度及び採取別による塩分成分との関係と除塩法-  
宇根 一樹 T県立美術館の設備計画-美術品保存を重視した設備設計-  
浜田 康伸 ビル火災における避難路の研究

## (水田一征先生指導)

- 岡田 英治 feel-natural science museum for children-  
for music  
加藤 和男 Musicscape  
上小田忠弘 Musicscape  
川本 靖紀 Welcome  
土井 仁美 アークード街の店舗  
森末 茂樹 Community Museum  
吉村 光史 CONNECTION ひろしま美術文化会館  
笠井 壮一 Cremation(都市における聖域を求めて…)  
弘中 一久 快感  
宮崎 康明 INTERMEDIUM  
-man-machine community museum-  
大谷 一男 Entrance for art  
西山 健治 Cover  
-creation of the civic life-

## (高松隆夫先生指導)

- 谷口和義・平田一博  
ゴム材料特性を有する構造物の大変形有限要素解析法  
内藤 誠・延近哲夫  
局部座屈を伴う高張力鋼目形断面柱の弾塑性挙動に関する実験的研究

- 中原康則・和田篤恵  
鉄骨構造のCADシステムに関する基礎的研究
- 藤井規行・山新雅和  
鉄骨部材の信頼性設計法に関する基礎的研究
- 秋山智好・伊藤友博  
軸力とねじりを受けるH形鋼柱の弾塑性挙動に関する研究
- 森田 雅章  
H形鋼はりの横座屈荷重に関する解析的研究

**(森保洋之先生指導)**

- 宮下啓二・田中進一  
広島基町高層住宅に於ける物的形態とその空間把握の特性について(論文)
- 菊地健一・林 広樹・有田 誠  
住宅情報より見た広島地区における集合住宅の供給特性及びキャッチフレーズと住戸計画の相互関係について(論文)
- 加藤隆寛・神邑昌宏・平田勝史  
低層集合住宅地における共存的意識と物的特性について(住宅の集合性に関する建築計画的研究(論文))
- 国方一恵・三田村修  
超高層住宅の居住実態に関する調査研究(論文)
- 小車 正博  
商機能の複合とその空間計画  
—広島の新都心をめざして—(設計)
- 岸本 嘉治  
APPROPRIATE SPACE(設計)
- 竹下 友子  
「さうきばやし」～shopping streetのために～(設計)
- 田中 陽一  
CITY-RESORT, —「ひとりの発見」—(設計)

**(篠原正道先生指導)**

- 有田恒之・大西正弘  
運動負荷時の代謝熱量の季節変動に関する研究
- 中村 弘・平田 誠  
安静時の代謝熱量の季節変動に関する研究
- 井岡 稔・中村博泰  
狭高窓による熱対流時の床近傍空気温度に関する研究
- 吉川正一郎・三島孝昭  
広島市における公的施設用ソーラーシステムの利用実態
- 沖野正夫・尾崎正仁・亀山 潤  
中国地方の標準気象データ整備
- 秋山浩一・原田伸二  
空洞を有する建築材料の熱コンダクタンスに関する研究
- 清古秀則・永田徳文  
山陰と山陽の都市住宅における夏・冬の環境調節法に関する調査研究
- 山根 伸一  
安静時における人体の熱収支に関する研究
- (浅野輝雄先生指導)**
- 岩崎 誠治  
形状が急変する基盤上の表層地盤の地震応答性状に関する研究
- 諾方 秀則  
ラーメンの弾塑性振動解析に関する研究
- 小松 敦宏  
不確定変動量を有する立体ラーメンの振動解析
- 近藤 昌幸  
非常帯スペクトル特性を有する地震動を受けた構造物の弾塑性応答解析
- 高野 靖秋  
地震動強度を表すパラメータに関する基礎的研究

- 中里 正道  
不整形地盤における立体ラーメンの地震応答解析
- 山本真一郎  
建築のCAD教育のためのグラフィック表示によるシミュレーション
- 徳納 太良  
都市防災のためのサイスマックマイクロブネーション

**(佐藤 洋先生指導)**

- 石橋健司・岡本文徳  
建築空間における単位空間の構造分析  
その1(論文)
- 平田匠吾・広田豪治  
建築空間における単位空間の構造分析  
その2
- 的場正典・木永貴之  
建築空間における単位空間の構造分析  
その3  
老人福祉センター(卒業設計)
- 吉内 康  
①健康増進センター  
三好 明彦  
②老人病院  
竹内 伸和  
③特別養護老人ホーム  
中村 雅幸  
④軽費老人ホーム
- 岡 みのり  
建築設計用CADシステム(論文)
- 森岡忠司・奥家己喜  
図形と色彩の調和に関する心理的評価の基礎的研究

**(菅原辰幸先生指導)**

- 石井敬人・向野浩司・安田耕司  
自治空間領域現況の調査・分析
- 山田 康彦・山口洋司  
広島市の地形及び用途指定等に関するデータ処理
- 加藤昌也・江島達也  
広島市の用途地域指定に関する研究
- 辻井 真  
J R五日市駅北口市街地再開発計画
- 茂木 楽  
「City」
- 沖 晴之  
「ふれあい」コミュニティセンター
- 横山 誠志  
「ヨットハーバーをもつスポーツセンター」

**(西川加弥先生指導)**

- 坂本祐司・井村英生・木原美恵・村山幸輝・太田知典  
川本大介・斎藤勲生・三戸敬子  
(論文)店舗付マンションの設計計画に関する調査研究
- 日野 忠司  
広島市西部丘陵都市に建つ低層集合住宅—親愛なる街
- 岩井 敏明  
広島市西部丘陵都市に建つ低層集合住宅—たまり場
- 竹本 孝  
広島市西部丘陵都市に建つ低層集合住宅—下町の心—向う三軒両隣の復活
- 八幡原 清  
広島市西部丘陵都市に建つ老人マンション
- 鬼倉 浩平  
広島市西部丘陵都市に建つ老人向施設—Silver Community Plaza
- 山野 哲晴  
広島市西部丘陵都市に建つ老人向施設—Old Kid Station

**(清田誠良先生指導)**

- 安部正信・舛見信行  
中国地方(広島県)における気象要素の解析
- 山地義男・福永 樹  
広島における気象要素の相違に関する基礎的研究
- 安田秀二・大塚 修・岡山昌義  
広島工業大学キャンパスにおける建物周辺気流観測と解析
- 梅岡尚樹・高島和保・柄本修祐・大藤真一・野嶋賢治  
市街地における海陸風と湿度度の観測

# 昭和63年度卒業予定者就職内定一覽

## 〈建築学科A〉

氏名	企業名	氏名	企業名
秋山 卓也		原田 直之	之司博
安部 正恒		日野 忠一	司博
有田 敬		平田 匠豪	吾治朗
井石 敬健		平田 一剛	三行郎
板井 祐祐		廣安 剛規	彰典彦
井上 英誠		藤井 正和	典二
井村 崎眞		古松 昭賢	樹久
岩谷 種智		的水 記茂	二司
梅江 西英		栄宮 秀洋	和男
大岡 田卓		岡森 雅真	史
岡田 文秀		安山 真光	晋清
岡本 方正		山新 裕一	之則
緒野 正裕		尾崎 和	幸文
海加 藤弘		上田 満紀	彦司
上小 山一		川本 健一	幸二
亀川 地之		菊山 康介	
爽木 原美		河野 宏幸	
青河 内幸		小松 司治	
近藤 昌武		近藤 幸修	
藤迫 山幸		高野 靖和	
高迫 野修		高田 真和	
高田 中仁		谷口 昌美	
筒井 井藤		土内 誠道	
内中 里正		中中 博則	
中中 村伸		長岡 忠説	
西本 品善		西本 善夫	
端延 林			

〈建築学科B〉

氏名	企業名	氏名	企業名
秋山	一好史	三田	修子
秋山	誠隆	田村	明司
荒有	博司	戸崎	隆榮
石伊	明之治	野上	誠文
井岩	二典	木川	樹司
上梅	修き	田本	清雄
江太	治基	田本	彦靖
大岡	義博	原下	美惠
岡岡	一寛	田野	之也
岡小	宏介	谷田	之喜
笠加	治剛	田島	也弘
神川	裕惠	家	彦和
岸清	平晴	藤村	以志
楠國	生守	尾内	幸晃
見近	高樹	納山	治彦
齊追	孝一	村榮	樹男
佐高	一真	山田	伸
竹竹	誠弘	根谷	
田田	士信	田	
辻戸	樹治		
中中	彦二		
水水	誠樹		
西西	士彦		
野野	行昭		
見山			
原田			
平田			
福水			
藤先			
船見			
外島			

# [ 広島工業大学建築学科 教員及び非常勤講師名簿 ]

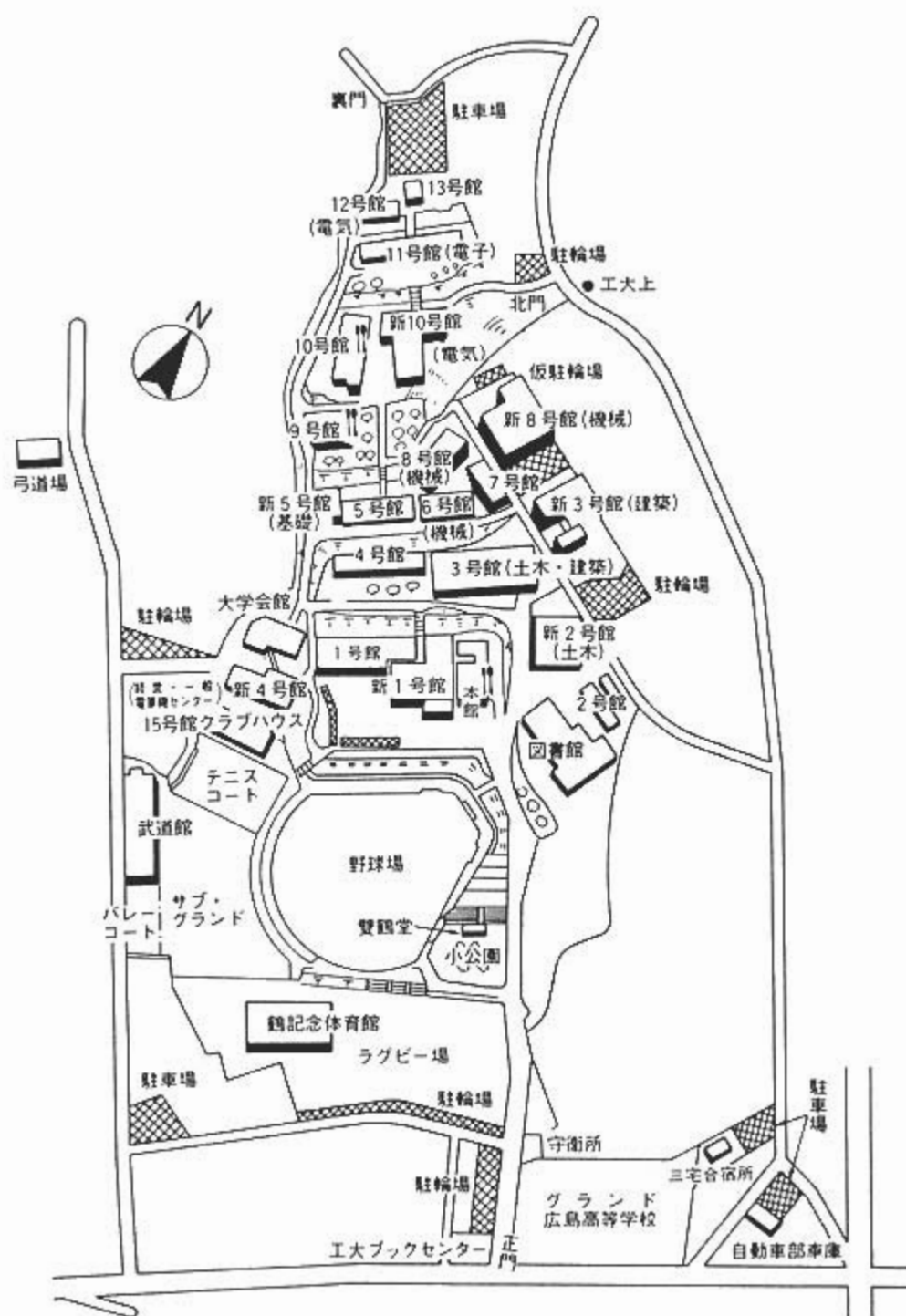
〔建築学科教職員・専任教職員〕

氏名	住 所	郵便番号	電話番号
中尾好昭			
輪越稔			
佐藤立美			
丹羽博亨			
青木栄			
牛島賢象			
天満祥弥			
水田一隆			
高松保洋			
森保洋道			
藤野道照			
佐藤洋			
菅原長幸			
西川加禰			
清水田誠良			
手越義昭			
大林真			

〔招聘講師〕

氏名	非常勤
嶋津孝之	非 常 勤
谷口汎	〃
花井正実	〃
光吉健次	〃
椋代仁朗	〃
青木義次	〃
杉本俊多	〃
岡部直人	〃
牧野純一	〃
恩野宗一郎	〃
小野泰	〃
関根毅	〃
平谷清	〃
角田弘	〃
有馬秀	〃
入野忠	〃
早佐重	〃
林公	〃
谷喜夫	〃

# 母校キャンパス案内



# 五三會活動報告

●幹事長 上之博文

五三會は、本年度の卒業生で21期目のメンバーを迎え、現在建築学科の卒業生は約4000人に達しています。

会員各位におかれましては、建設会社、役所、設計業と様々な方面で御活躍のことと思います。私達五三會も、会員各位の親睦と情報交換の場としての目的を達すべく活動しております。活動内容は以下のとおりであります。幹事会への参加者は少なくまた新幹事も少ない状況でありますので、五三會をより充実するために会員各位の御協力とそして幹事会への御理解、御参加をお願いしたいと思います。

以下に活動内容を御報告申し上げます。

## 報告内容

### 昭和63年度活動報告

1. 第15回定期総会の開催
2. 会報誌「五三會」第15号発刊
3. 第14回五三會コンペの実施
4. 会員住所カードの整理
5. 五三會本部組織の強化
6. 五三會会員増加運動

## 昭和63年度役員

- (会 長) 中塚晴夫(造設計集団A・A設計室)  
(副 会 長) 森田洋生(広島市役所)  
中島伸夫(株・LAT環境設計事務所)  
(会 計) 山本富夫(広島市役所)  
河野秀穂(広島県庁)  
(会計監査) 森京 正・三宅智之(広島県庁)  
(書 記) 松田智仁(広島市役所)  
(幹 事 長) 上之博文(株・LAT環境設計事務所)

五三會は、昭和58年度から終身会費制を導入しており、会員のみ会報を発送させてもらっています。会費未払いの方及び未加入の方は早急に手続きをお願いしたいと思います。下記五三會事務局へ御連絡下されば振込用紙をお送りさせていただきます。

## 〔五三會事務局〕

広島市佐伯区五日市町三宅  
広島工業大学建築学科菅原研究室内  
〒731-51 TEL(0829)21-3121



# 五三会収支決算報告

〔昭和62年度収支決算報告〕

◆収入の部

繰越金	1,941,999円
新会員会費	1,210,000
広告料	750,000
雑収入	34,439
合計	3,936,438円

◆支出の部

印刷費	404,100円
郵送費	118,830円
会議費	19,320
銀行送料	600
總會負担金	0
コンベ	200,000
在学生援助費	20,000
バイト費	20,000
消耗品等雑費	0
子備費	60,000
繰越金	3,093,588
合計	3,936,438円

〔昭和63年度収支予算〕

◆収入の部

◆支出の部

科目	小科目	金額	科目	小科目	金額
会費収入		700,000円	管理費		440,000円
	新会員会費	700,000		總會費	50,000
活動収入		800,000		会議費	210,000
	広告料	800,000		バイト費	50,000
雑収入		3,412		消耗品費	10,000
	利子収入	411		備品購入費	50,000
	寄付収入	1		印刷費	40,000
	雑収入	3,000		通信費	20,000
積立金取崩収入		0		雑	10,000
	積立金取崩収入	0	活動費		1,110,000
繰越金		3,093,588		会報発刊費	810,000
	繰越金	3,093,588		コンベ	200,000
合計		4,597,000円		会勢費	50,000
				学術文化費	50,000
			子備費		577,000
			子備費	子備費	577,000
			積立金		2,470,000
			積立金	積立費	2,470,000
			繰越金		0
			繰越金	繰越金	0
			合計		4,597,000円

# 広島工業大学建築学科同窓会 「五三会」会則

## 第一章 総 則

- 第 1 条 本会は広島工業大学建築学科同窓会「五三会」と称する。
- 第 2 条 本会は本部を広島工業大学建築学科内に置く。但し、総会で必要と認めた場合に支部を置く事を得る。
- 第 3 条 本会は会員相互の交誼を厚くし、かつ母校建築学科の発展に貢献することを目的とする。
- 第 4 条 本会は前述の目的達成の為に下記の事業を行なう。
- (1) 集 会
  - (2) 会員相互の連絡並びに共助に関する事
  - (3) 会誌及び会員名簿の発刊
  - (4) 母校建築学科に対する精神的、物質的援助
  - (5) その他本会の目的達成に必要な事

## 第二章 会 員

- 第 5 条 本会は下記の者を以て組織する。
- (1) 正 会 員 広島工業大学建築学科卒業生のうち会費を納入した者
  - (2) 準 会 員 正会員以外の広島工業大学建築学科卒業生
  - (3) 学生会員 広島工業大学建築学科在学学生
  - (4) 客 員 母校職員及び旧職員
  - (5) 名誉会員 本会の発展に貢献し、名誉会員としてふさわしいと総会で認められた者

## 第三章 役 員

- 第 6 条 本会は下記の役員を置く。
- |           |           |           |     |
|-----------|-----------|-----------|-----|
| (1) 名誉会長  | 置くことができる  | (2) 会 長   | 1 名 |
| (3) 副 会 長 | 2 名       | (4) 会 計   | 2 名 |
| (5) 会計監査  | 2 名       | (6) 幹 事 長 | 1 名 |
| (7) 幹 事   | 若干名       | (8) 書 記   | 2 名 |
| (9) 評 議 員 | 各卒業年度に若干名 |           |     |
- 第 7 条 本会の役員は次の方法で決める。
- (1) 名誉会長は總會をもって推す。
  - (2) 会長・副会長・幹事・会計・会計監査・書記・評議員は總會で正会員の中から選ぶ。
  - (3) 幹事長は幹事の中から互選する。
  - (4) 幹事は總會の議決により正会員の中から委嘱する。
  - (4) 幹事は總會の議決により正会員の中から委嘱する。
- 第 8 条 各役員はそれぞれ次の任務をもつ。
- (1) 会 長 本会を代表し会務を統べる
  - (2) 副 会 長 会長を助け支障がある時は代理する
  - (3) 会 計 会計事務に当る

- (4) 会計監査 会計を監査する
- (5) 幹事長 会務を主宰する
- (6) 幹事 会務を処する
- (7) 書記 書記事務に当る
- (8) 評議員 会務を評議する

第 9 条 役員任期は一年とし再任をさまたげない。但し欠員は役員会にはかり補充し、これによって就任した者の任期は前任者の残りの期間とする。

#### 第四章 顧問

第 10 条 この会に顧問若干名をおく

- (1) 顧問は総会の議決により適任者を委嘱する
- (2) 顧問は会の諮問に応じる

#### 第五章 会議

第 11 条 会議を分けて定期総会、臨時総会、役員会及び事業委員会とする。

第 12 条 総会は最高の議決機関で毎年一回開く。臨時総会は役員会が必要と認めた時会長が招集する。

第 13 条 総会は次のことを決める。

- (1) 会則の変更と改正
- (2) 決算及び予算
- (3) 役員改選
- (4) その他重要な事

第 14 条 役員会は会長が必要と認めた時招集し、次のことを決める。

- (1) 総会に附議する原案
- (2) この会の運営に関する諸事項
- (3) 事業委員会の組織
- (4) その他緊急事項の協議

第 15 条 事業委員会は必要に応じて幹事により組織し、第 4 条に掲げる事業についてその事務を処する。

第 16 条 会議の議決は会員の参会者の過半数をもって決定し、賛否同数の時は議長がこれを決定する。

#### 第六章 会計

第 17 条 この会の経費は会費、寄付金及びその他の収入をあてる。

- (1) 会員は入会金と終身会費として、入会時10,000円を納入しなければならない。
  - (2) 学生会員は在学期間の会費として3,000円を納入しなければならない。
- なお、学生会員の会計は本会計より独立させる

第 18 条 この会の会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

#### 第七章 委任事項

第 19 条 この会則に定めのあるもののほか、必要な事項は役員会においてこれを定める。

#### 付 則

終身会費については、昭和58年度から施行する。

## 編集後記

会誌発行にあたり、御寄稿下さった方々、また、多数のスポンサーの方々にお礼を申し上げます。

今回も「広島」をテーマに掲げ、県外からの原稿を更につのりました。

会員からの寄稿が、一つの大きな情報です。近況、作品、紀行文、意見、趣味等、何でもよろしいですから事務局までお寄せ下さい。お待ちしております。

### 「五三会」第16号 編集委員

上木 薫(51) 広島県都市局営繕課  
☎ 082-228-2111

小川 雅彦(53) 広島大学施設部建築課  
☎ 082-241-1221



### 広島工業大学建築学科同窓会誌 「五三会」第16号

編集責任者	小川 雅彦
発行責任者	菅原 辰幸
企画・製作	アクト企画
発行	平成元年3月31日